



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

エジプト：ムバーラク前大統領の容態悪化

主席研究員 中島 勇

ムバーラク前大統領の健康悪化説は、2011年2月11日の辞任後、何度も報道されてきた。辞任後、ムバーラクは、シャルムツシェイクに移動した。2月28日、エジプト検察当局は、ムバーラク前大統領と家族の出国を禁止した。3月28日、軍最高評議会は、ムバーラク前大統領とその家族は、エジプト国内で自宅軟禁下にあると発表していた。4月中旬からムバーラク前大統領の事情聴取が開始された際、体調が悪化したと報道され、同15日には、カイロの軍病院に入院している。

8月3日、ムバーラク前大統領らの裁判が開始されると、同元大統領は、裁判当日にヘリコプターでシャルムツシェイクの病院からカイロに移送された。その後の報道では、ムバーラク前大統領は、軍の病院で拘留されていた模様だが、2012年6月2日に終身刑の判決を受けた後、カイロのトラ刑務所内の治療室に移送された。この頃から、ムバーラク前大統領の病状が悪化していることが頻りに報道されるようになった。11日には、心臓発作を2度起こしたとも報じられた。そして19日には、容態が悪化し、ムバーラク前大統領はトラ刑務所内からカイロ市内の軍病院に移送された。現在は生命維持装置を付けた状態だと報道されている。

現在84歳のムバーラク前大統領は、大統領を辞任する前、国外への移動を拒否し、自分はエジプトで死ぬと発言していた。終身刑の判決に不満を持つ国民らが街頭デモを開始し、司法界は、司法に対する干渉であると反発していた。